第五章　災害

(一)　災害記録年表

以下は十和村を中心とする万治元年から昭和十年迄の災害略年表である。

一六五八　万治一、八、一九、　風雨
　　幡多郡の田地損害　八〇〇〇石
　　死者一二、流家五六七戸　潰家六八四戸
一七二一　享保六、七、五～一五　洪水
一八二二　文政五、六、三　洪水
一八四六　弘化三、六　洪水
一八四九　嘉永二、七、九～一一　風雨
一八七〇　明治三、九、七　洪水
　　嘉永二年以来の大洪水
一八八六　同　一九、九、一〇　台風
　　台風の中心が豊予海峡を南から北々東に通過。この年四回の暴風雨

一八九〇　同　二三、九、一一(旧暦七月二十七日)雨台風(七五〇ミリ)
　　中心が宇和島付近から東北東に通過し、本県中西部各河川が増水し、被害甚大であった。特に本村の被害は次の記録に見られるように、未曾有の大洪水であった。(後述)
一八九六　同　二九、八、一八　台風
一八九八　同　三一、九、　二　台風
一八九九　同　三二、八、二八　台風
　　中心示度七二〇ミリ、下田付近に上陸し、岡山方面へ抜けたが、特に風が強く高知城のシャチが飛ばされた。
一九〇二　同　三五、九、七～八　暴風雨
　　平水より十尺増水し、田畑浸水数十町歩、家大破一、道路四ヶ所一五～二〇間、橋流失二、破損三。
一九〇七　同　四〇、九、七　雨台風
　　田野々では六、七両日四四四ミリの雨で増水したが被害は少なかった。
一九一一　同　四四、八、五
　　田野々の雨量三八三ミリ、中村では平水より二丈六尺余の増水
一九一二　大正一、九、二二　台風
　　中心示度七〇〇ミリ、田野々の雨量三〇〇ミリ
一九一四　同　三、一、一七
　　桜島の噴火による地震と降灰
一九二四　同　一三、一〇、八　台風

一九二八　昭和三、九、一八　台風
　田野々では三日間に五五〇ミリ降雨
一九三四　同　九、九、二一　室戸台風
一九三五　同　一〇、八、二五～二八
　台風中心示度七三一ミリ、清水付近に上陸し、本県を斜断して高松方面へ抜けたが、田野々の雨量は二日間に六六〇ミリ、本県特に幡多郡の被害は、明治二三年九月の洪水に次ぐもので被害は次の通りであった。

	死者	傷者	行方不明	全壊	半壊	流失	浸水（床上、床下）
高知県	一七	七二	五	一五三	五〇四	二〇四	五、五四六（三、六五四）
幡多郡	五	六八	〇	一二六	四七三	一九三	四、五三三（九七〇）

十川村では、川上ほど水位が高く、街外れの田辺十川校訓導宅の前付近は浸水し、道路面から九尺に達した。
村役場では久原村長、武内助役、中平収入役など懸命に災禍の調査最中で、村長は「災禍を知らなかった十川村も、今度はこじゃんとやられましたよ。」という。
田畑は大野、川口、地吉、井崎等の河岸が荒廃し、稲作は六割減、畑物では名物黎は全滅した。県道下の田畑は殆んど磧と化してしまった。学校は高所にあるので無事であったが、運動場は土砂で埋まり、回復するのに二百円を要した。村内の損害は次の通り。
田流失　七町六反歩　一六八〇〇円

畑流失　二〇町一反歩　五五一五〇円
河岸破損　一四五〇〇円
村道破損　三一四〇円
橋梁六ヶ所　一〇〇〇円
農作物　損失高　二三二八〇円
井堰流失一七ヶ所　四三六〇円
漁具流失　八三〇〇円
浸水家屋一〇五棟　八五〇〇円
桑園損害　五〇〇〇円
商具家具流失　二六八〇円
その他　四九八〇円
合計　約一六万円

一九三五　昭和一〇、九、二四　台風、中心七二〇ミリ
　清水付近に上陸、Aクラスの台風
一九三七　同　一二、九、一一　台風、中心七一〇ミリ
一九四二　同　一七、七～八月　大旱魃
　大井川、河内大明神の「雨乞祈念ニ付棟札」の裏面に次の記録がある。
「本年新暦六月中ハ殆ンド晴天ナク降続キ、七月三日迄約廿五日間、近年稀ナル長降リナリシガ、七月四日ヨリ八月十一日迄照続キ雨降ラズ、故ニ左記ノ通リ度々雨乞大祈念ヲナシ心力ヲ尽セドモ及バズ益

々照リ、現在スデニ稲作ハ所ニヨリ出穂ノ見込ミ無キ所出来タリ。畑作ハ全ク枯レ所ニヨリ何分ノ見込ミナシ。山ノ草木ノ枯レユク有様ハコノ百年無シトノ事ナリ。実ニ曇リ日サヘ少ク室内ニテ九十三、四度（華氏）ニ上リ、尚此ノ後心配シツツアリ。」

一九四三　昭和一八、七、二一～二四　洪水
　大正町で雨量九六〇ミリ
一九四五　同　二〇、九、一七　枕崎台風
　同　同　一〇、一〇　阿久根台風
一九四六　同　二一、七、二九　台風
　窪川町は二日間降雨五三〇ミリ、県下の被害（死、行方不明、家屋破損、耕地被害七三八〇）十和村の損害不詳
　同　同　一二、二一　南海大地震
一九五一　同　二六、七、一～二　台風六号（ケイト）
　中心示度九七六ミリバール、宿毛、清水間に中心が上陸し、須崎沖を通過。
一九五四　同　二九、六～七月　梅雨
　特に六月二九日、大雨
　同　同　八、一七　台風五号（グレイス）
　中心示度九七四ミリ　宇和島→高知北方
一九五六　同　三一、一一月～翌三月まで
　二ケ月余り降雨なし。

一九五七　同　三二、九、八　台風一〇号
一九六〇　同　三五、五、二四　チリ地震による津波が土佐湾に来襲。
一九六三　同　三八、八、八～九　台風九号
　中心示度九六五ミリ、豊予海峡を北上し、東津野村、大野見村で一千ミリ内外の降雨あり、四万十川流域は被害甚大、県下で死者行方不明一九、建物破損二八六、耕地被害七二〇〇ha。
　十和村被害
　住宅全壊五、半壊八、浸水床上九〇、床下四五。
一九七〇　同　四五、八、二一　台風一〇号
　中心が佐賀町付近から北上し、高知地方気象台開設以来の大型台風で、高岡郡以東の被害は大きく、県下で死、行方不明一三、建物破損一八七六〇、耕地被害約八〇〇〇ha。
　十和村付近は台風進行方向の北西部に当たり、被害が少なかった。
一九七五　同　五〇、八、一七　台風五号
　中心が宿毛市付近に上陸し北上したから中西部に雨量が多く、県下で死、行方不明七七、建物破壊一八一六、耕地被害六九〇〇ha。
　十和村、住家全壊三、破損一二〇、非住家損害一三二。

(二)　明治二十三年九月の水害の状況

○大井川河内大明神（現井川神社）棟札明治二十三年水害付棟札、旧九月三日。

「同年旧七月二十七日夜ヨリ雨頻リニ降リ出シ日中ニ止ミ出水始メ遂ニ洪水に相成以社前大松ノ元ニテ水勢止リタリ。此ノ本社ヲ受ケ脇障子前ノ御戸流失仕其時造作仕候也。　部落惣代、平野保峯」

○四手村三嶋大明神　棟札

「明治二十三年旧七月二十七日、古今未曾有ノ大洪水ニ流失」

○茅吹手郷社　棟札

「明治二十三年旧七月二十七日洪水ノタメ流失」

○小野の『曾我神社再興之記』によると、明治十九年及び二十三年の暴風雨により本殿、拝殿が破損したことが記されている。

○「水禍の上流地を尋ねて」

明治二十三年九月の洪水は、郡内一の高い橋―十川橋は橋桁まで増水し、付近の高地にあった二十三戸を残して市街地の全部が浸水し、役場前の中央部は床下まで、花屋、二宮旅館が床上一尺一寸、十川局は土間まで、森野医院が床上四尺、佳子夫人の話では〝その時の水位の跡がある〟という。階上三尺八寸である。

（昭和十年の洪水の水位より五尺八寸高い）物産商今利屋―南梅次宅は、明治十六年八月の建築で、床上三尺五寸まで浸水、背後の蔵の板壁に次の通りの記録がある。

「四万十川大洪水惨状、流失家屋壱千余戸浸水家屋壱万余戸溺死百余人、

明治廿三年寅第九月十一日旧暦七月廿七日水盛、午後四時平水ヨリ高サ六丈余、此土蔵ニ水量スレバ二階板ヨリ弐尺上ル、古今未曾有ノ天変、〝〟建物土蔵一ヶ所、客座一棟、納屋一棟、釜屋一棟、雪院一ヶ所、薪置場一ヶ所、合六棟流失、本屋半倒、家蔵四棟壁皆流落ス

明治廿四年卯第四月建之

棟梁伊豫国大洲領豊田浦松尾伊太郎

大洪水ノ節荷物一切上ナル土蔵へ持運フコト。」

（註）この時の水位は現在の役場二階の床上面と同じで、国道路面より四・五m。

○甲盛角柱塔の墓標

正面

三島而亡僧善性坊
先祖代々諸精霊等

右側

明治廿三年大洪水ニ
流失ス依之仝卅年七月
之ヲ誌ス武石因藏

三島は河中洲であり、数軒の民家があったが洪水により他所へ移転した。

○黒川（里川）田辺善正家の長持の蓋に残る記録。

「明治廿三年旧七月二十七日大台風、田辺福太郎十七の年、うらぐしの前へいだをくみに行っていとびょへ戻った。その時は命がみてたと思うた。うちへ戻れば皆その通り、谷はづんなり。（一面水が一ばい）

黒川、明治廿三年旧七月廿七日、

田辺福太郎、森本熊次、菊次、音次

大台風ありその時黒川は恐いことになりよった。その時田野々村は仁井田川山が森の駄場を中へして水がまわった。」